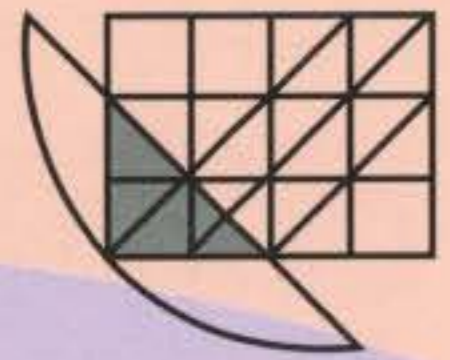


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.7

2002.3.25

特別展

根来寺の能面

— 紀伊徳川家ゆかりの品 —

■ 2002年 4月27日(土)～6月2日(日)



特別展 根来寺の歴史と文化

— 興教大師覚鑊の法灯 —

■ 2002年 10月5日(土)～11月10日(日)

特別展

根来寺の歴史と文化

— 興教大師覚鑿こうぎょうだいしの法灯かくぼん —

会期 二〇〇二年十月五日(土)～十一月十日(日)

開催要項 (両展共通)

◇ 開館時間 午前九時三〇分～午後五時
(入館は午後四時三〇分まで)

◇ 休館日 毎週月曜日
(月曜日が休日の場合はその翌日)

◇ 入館料

団体	個人	一般	大学生	高校生以下
660円	810円			
400円	510円			
無料	無料			

※団体は二〇人以上です。
※六五歳以上の方、障害者の方は無料

平安時代後期の高野山の僧・覚鑿は、鳥羽上皇の帰依を受け高野山上に大伝法院を創始しました。その後、覚鑿は高野山の座主を兼ねるなど一大勢力を保持しましたが、そのことのでかえって高野山の旧来の勢力と深刻な対立を引き起こし、覚鑿の法灯を受け継いだ僧たちは、鎌倉時代になって高野山上から現在の岩出町に拠点を移すことになりました。根来寺の始まりです。

本展では、興教大師覚鑿の思想・教学をひとつの軸として、その法灯を守った人々に焦点をあてながら、中世根来寺の隆盛と退転、近世の復興の様子を明らかにし、あわせて根来寺の経済を支えた周辺寺領に残された多くの文化財も展示します。



小面 (出目 満永作) 根来寺蔵

根来寺には、紀伊徳川家第八代藩主・徳川重倫しげのりによって寄進された一六〇余面の能面が所蔵されています。これらの能面は室町時代から江戸時代にかけて造られ

講演会

「紀伊徳川家と能楽」

講師 宮本圭造氏
(大阪学院大学専任講師)

日時 二〇〇二年五月十九日
午後一時三〇分～三時

場所 和歌山県立近代美術館
2階AVホール

ミュージアム・トーク (学芸員による展示解説)

四月二十八日(日)・五月十二日(日)
五月十八日(土) (国際博物館の日)
午後一時三〇分～二時三〇分



覚鑿像 (部分) 根来寺蔵



鳥羽上皇像 根来寺蔵 重要美術品



頼喩像 根来寺蔵

館蔵品コーナー⑦



紀伊国那賀郡田中庄山之絵図 一舗
紙本淡彩 縦52.5×横74.2 元禄12(1699)年

現在の打田町の中部から南部にかけての一带は、中世には田中荘と呼ばれ、摂関家の荘園でした。歌人として名高い西行の実家は、この田中荘で活動した土豪で、その兄弟は隣接する荒川荘（現桃山町）としばしば紛争を起こしています。

江戸時代に入り、田中荘は和歌山藩領、荒川荘は高野山寺領となりましたが、両者の紛争はその後も続き、ようやく宝永3（1706）年に決着しました。この絵図は、紛争がまだ継続中の元禄12（1699）年、田中荘が主張する自らの「持ち山」の範囲を描いたもので、山や谷の地名、集落や寺院、ランドマークとなる樹木や奇岩などが詳細に描き込まれています。

興味深いのは、ここに描かれている和歌山藩領田中荘の範囲内にいくつかの「寺領田」が記されていることで、関連文書に「高野山寺領は、和歌山藩領と山々村々田畑が数多く入り組んでいる」とある記述に符合します。荒川荘側はその時、「田中荘側が山に植えた松が生長し、田地がその日陰になって迷惑だ」と抗議し、後に松の木12,000本を引き抜いたそうです。

田中荘にとってこの山は、用水路や溜池を維持する用木を確保する重要な山でした。またそもそもこの紛争が、荒川荘による「柴草盗み」に端を発するものであったことから分かる通り、両者にとってこの山は水田耕作の肥料となる柴草を得る山でもありました。当時の人々にとって山は様々な恩恵をもたらす貴重な財産だったのです。 (T・T)



和歌山県立博物館 エントランスホール

にも使われます。昨年は、「さわってみる」展示として粉河寺大門の鬼瓦を展示し、なかなか手で触る機会のない文化財に実際にさわってみる試みも行われました。
エントランスホールは、博物館のホットな話題をこれからも提供してくれることでしょう。

特別展
根来寺の能面

— 紀伊徳川家ゆかりの品 —

たもので、作者名の分かるものも多くあります。本展では、近年根来寺によって修理されたこれらの能面のうち九七面と、県内各地に所蔵されている能・狂言面の他、徳川家康が用いた能装束なども展示します。総数一三八の面の繊細かつ多様な造形にふれ、紀州の能文化の広がり、日本が世界に誇るべき伝統芸能「能」を身近に感じていただきたいと思います。

会期 二〇〇二年四月二十七日(土)～六月二日(日)

- 主な出陳品
- 能面 根来寺蔵
 - 能面 (紀伊徳川家旧蔵品) 個人蔵
 - 能狩衣 紀州東照宮蔵 (県指定)
 - 獅子頭 丹生官省符神社蔵 (県指定)
 - 能・狂言面 河根丹生神社蔵 (九度山町指定)
 - 能・狂言面 古沢巖島神社蔵
 - 紀州藩三浦家文書 和歌山大学蔵 (県指定)

スポットライト・博物館

エントランスホール

博物館の「顔」、エントランスホールは館内で一番ゆつたりした場所です。博物館では、展示する資料や文化財を保護するため、展示室内などはどうしても照明を暗くしなければなりません。そのため、どうしても「博物館」というと「暗い」というイメージがつきものです。

このエントランスホールは、そんな博物館のイメージとは反対に、一面ガラス張りの壁面から差し込む太陽の光で、まぶしいばかりの明るい空間となっています。

ここは博物館の「玄関口」ですから、さまざまな目的で利用されます。例えば、特別展などが開かれる時は開会式が行われたり、ロビー展として写真展示や資料展示

平成十四年度の展覧会

展覧会名・日程などについてはいずれも
も予定です。詳しくは博物館学芸課まで
お問い合わせ下さい。

コーナー展	コーナー展	コーナー展	特別展	コーナー展	コーナー展	コーナー展	特別展	コーナー展
きのくにの仏像	新収蔵品展	きのくにの国宝	根来寺の 歴史と文化 —興教大師覚鑿の法灯—	きのくにの文化財 2002	ろせつと どうぶつたち	きのくにの やきもの	根来寺の能面 —紀伊徳川家ゆかりの品—	新収蔵品展
3月1日 ～4月19日	1月11日 ～2月23日	11月16日 ～12月23日	10月5日 ～11月10日	8月31日 ～9月29日	7月20日 ～8月25日	6月8日 ～7月14日	4月27日 ～6月2日	開催中 ～4月21日
当館に寄託されている仏像のうち、優品を展示します。	県立博物館で最近購入・収蔵した作品の中から、刀剣・文人画・やきものなどの優品を展示します。	県内にある国宝の数々を、写真パネルによって展示します。	根来寺の歴史を興教大師覚鑿の教学やそれを受け継いだ人々に視点をあてながら紹介します。詳しくは本文を参照。	県立博物館では県内各地の国宝・重要文化財・県指定文化財をはじめ、多くの文化財の寄託を受けています。ここではその中から、中世の紀州を知るのに欠かせない資料を展示します。	南紀の草堂寺・高山寺などで半年足らずの間に一四〇面を超える襖絵や屏風絵を描いた天才画家・長澤蘆雪。ここでは蘆雪の描いたユニークな動物たちに焦点をあて、親子で楽しめる障壁画を紹介します。	県立博物館の館蔵品の中にはやきもの的一大コレクションがあります。ここでは、偕楽園焼・瑞芝焼などの優品を紹介します。	紀伊徳川家の八代藩主・重倫が根来寺に寄進した能面を中心に展示します。詳しくは本文を参照。	県立博物館で最近購入した作品の中から、文人画・やきもの・古文書など、紀州にゆかりの優品を展示します。
								

博物館の利用案内

開館時間 ・午前九時三〇分～午後五時
(入館は午後四時三〇分まで)
休館日 ・毎週月曜日
(月曜日が休日の場合はその翌日)
・年末年始および展示替え期間中は臨時に休館します。詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。

駐車場 ・二時間以内は四〇〇円、以後三〇分ごと
に一〇〇円追加。
・大型バスの駐車スペースもあります。

※学校行事・授業の一環でご利用の場合、あらかじめご連絡下さい。

入館料

〈常設展・コーナー展〉

団体 (20人以上)	個人	一般	大学生	高校生 以下
210円	260円	120円	150円	無料
無料	無料			

※特別展の入館料は本文をご覧下さい。
※二〇人以上の団体入場は引率者一人を無料とします。
※六五歳以上の方、障害者の方は無料です。
(受付で証明書等を提示して下さい。)

和歌山県立博物館友の会

◆◆◆◆◆会員募集のお知らせ◆◆◆◆◆
県立博物館では、友の会会員を募集しています。常設展・特別展を無料で観賞できるほか、様々な特典があります。年会費は、一般会員が三、〇〇〇円、賛助会員が六、〇〇〇円です。
申込み・問い合わせは、和歌山県立博物館友の会事務局
(☎〇七三―四三六―八六七〇)

和歌山県立博物館 博物館だより 第七号
発行日 平成一四(二〇〇二)年三月二五日
編集 和歌山県立博物館
〒六四〇―八一三七 和歌山市吹上二丁目四番一四号
TEL(〇七三) 四三六―八六七〇
http://www.wakayama.go.jp/hakubuntuh.html